

公益財団法人図書館振興財団主催

第26回 図書館を使った

調べる学習コンクール

(第16回茅野市小中高校生調べ学習コンクールの全国大会)

※注) 茅野市では、調べ学習コンクールという名称としています

結果発表！！

今年度の第16回茅野市小中高校生調べ学習コンクールの入賞作品から、図書館振興財団主催 第26回図書館を使った調べる学習コンクールの応募規定に従い、市内小中学校参加作品1,247作品の1.5%にあたる19作品を応募したところ、過日審査結果が発表され、以下のような結果となりました。茅野市こども読書活動応援センターホームページでは、2回に分けて作品を紹介していきます。

8 優秀賞 日本児童教育振興財団賞

永明中学校 2年 戸田 昊生さん

8 奨励賞

泉野小学校 2年 晝間 愛梨さん	・	豊平小学校 2年 古林 陸都さん
米沢小学校 3年 松木 葉奈さん	・	永明小学校 4年 竹内 優奈さん
宮川小学校 6年 五味 優真さん	・	永明小学校 6年 松坂 奏来さん
玉川小学校 6年 矢崎 愛佳さん	・	北部中学校 1年 大久保 結さん

8 佳作

米沢小学校 1年 矢野 舞歩さん	・	豊平小学校 1年 堤 陸斗さん
永明小学校 2年 宮坂 莉緒さん	・	永明小学校 3年 渡邊 心さん
金沢小学校 4年 平林 明理さん	・	宮川小学校 4年 牛山 到哉さん
豊平小学校 5年 川瀬 智子さん	・	米沢小学校 6年 濱田 万智さん
永明中学校 1年 吉田 莉彩さん	・	北部中学校 1年 大久保 紬さん

全国の応募総数113,451作品。その中で、入賞(優秀賞)は32作品・入選(優良賞)は134作品・入選(奨励賞)は258作品・入選(佳作)は1,256作品でした。全応募作品の1.5%の入賞入選作品の中に、茅野市の子どもたちの19作品が入っていることは、とても素晴らしいことです。これらの作品は、茅野市図書館内茅野市こども読書活動応援センターで、複製作品を保管していますので、ご覧いただくこともできます。

茅野市では、図書館を使った調べる学習コンクール(茅野市小中高校生調べ学習コンクール)を、子どもたちが自分の興味関心に基づき、さらに深く知り、追究していく、多様な学びの一つとして考えています。

作品紹介 その1

🏆 優秀賞 日本児童教育振興財団賞



画像提供：

公益財団法人図書館振興財団

『ブルーベリーは追熟するのか？

～甘い完熟果を求めて～』

永明中学校 2年 ^{とだ}戸田 ^{こうき}昊生 さん

下校途中に口に放り込むブルーベリーが「食べた瞬間、顔面が潰れたスポンジのようになる」程酸っぱいことと、おうちの方の「どうしたら甘くなるか調べてほしい」との依頼とがぴったり重なり、火が付いた探究心。

様々な視点から多くの資料を読み取り、自宅の畑と比較しながら追求を深めているところが素晴らしいです。

資料から自分の考えを整理し、専門家とのやり取りを重ねる中での新たな気づきから、自分なりに甘いブルーベリーを育てる方法を導き出しました。おうちの方への「調査報告書」という形で、わかりやすくまとめられています。

🏆 奨励賞



『人形大好き』

泉野小学校 2年 ^{ひるま}書間 ^{あいり}愛梨 さん

愛梨さんは、人形で遊ぶことが大好きです。自分が好きなお人形について、より深く知ろうと追究し続けているところが素晴らしいです。

おままごとから、日本で一番古い人形目をむけて、縄文時代までさかのぼって調べることができました。自分の予想（こけし）とは違い土偶が一番古いことを知ると、それならこけしはい作られたの？と疑問が繋がっていきます。調べたいこと、自分の思い、学んだこと、考えたことがよく整理されて、ていねいにまとめられています。人形が大好きで、大切にしている気持ちがよく伝わってくる作品です。

『水のない生活！？～水をろかしてつかいたい～』

豊平小学校 2年 ^{ふるぼやし} 古林 ^{りくと} 陸都 さん

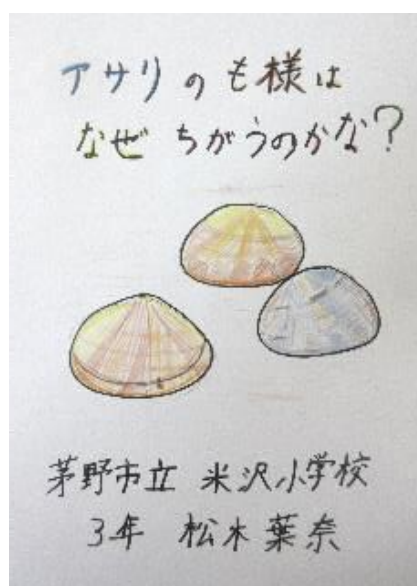


自分の家の水道がこわれて、急に水が出なくなった！
買ってもしすぐ終わってしまう水。これをきっかけに、どうしたら飲み水が作れるのか、なるべく水を使わない方法はないかと、水を詳しく調べました。

一日の使用量を確認、食事の時の節水方法を『防災』をヒントに自分で体験したり、湧き水を探したり、飲み水を作るためのろ過装置を作って実験をしたりしながら、本で調べたことを確かめています。調べたことと実験から分かったことを繋げて、自分なりに考えた水の使い方が、よくまとめられた作品です。

『アサリのも様はなぜちがうのかな？』

米沢小学校 3年 ^{まつき} 松木 ^{はな} 葉奈 さん



ある日、アサリの酒蒸しを食べながら気になった疑問。「なんで貝がらの模様は全部違うの？」お母さんに聞いてもわからない。どうしても知りたくなって調べました。調べたい意欲がわき出してきたことが伝わってきて、とってもすてきです。

住んでいるところが違うと模様も違うのではないかと予想をたて、アサリが住んでいるところを調べることからスタート。そして日本のいろいろな所からアサリを取りよせ、実物を比べながら、模様の違いと気候の関係に目を向けて、追求を深めていくことができました。

本で調べたことを確かめるために、出版社や「さかなクン」に質問するなど、いろいろな方法で調べ、分かって楽しい調べ学習になりました。



『わたしが使った水はどこを通過してどこへ行くの？
下水はつづくよ どこまでも～』
永明小学校 4年 ^{たけうち} 竹内 ^{ゆうな} 優奈 さん

毎日新聞に載っていたマンホールの写真。家の近くにもあるけれど、この中には何があるの？と生活の中から生まれた疑問。お母さんは「汚れた水が流れてる」って言うけど、本当かな？クラスのみんなは知っているのかな？と、夏休み前から調べ始めました。

調べていく中で見つけた『下水道』という言葉。『下水道』って何？これがなかった頃はどうしていたの？いつできたの？と新しい発見や自分の予想とは違う結果におどろきながら、いろんなことがわかっていく楽しさが伝わってきます。調べたことを実際にやってみて感じたこと、考えたことも、とてもいてないにまとめられて、「洗い物をするときには気をつけたいな」と考えさせられる作品です。



『恐竜王国勝山
—たくさんの恐竜化石が発掘され続けるわけ—』
永明小学校 6年 ^{まつさか} 松坂 ^{そら} 奏来 さん

恐竜が大好きな奏来さん。2年生の夏休みに福井県立恐竜博物館で出会った『フクイラプトル』。他にも次々と恐竜化石が発掘される福井県勝山市に着目し、恐竜が住みやすい環境だったという予想を、本を読んだり、実際に現地へ行って博物館の方や大学の先生に話を聞いたりして、調べました。

小さいころから積み重ねてきた知識と、そこから生まれた新たな疑問について、自分なりに予想を立て、より深く追及する姿勢がとてもすてきです。本で調べたことを確かめようと再度福井県勝山市を訪ねたり、小谷村で発見された恐竜化石について大学の先生にお話を聞いたり、ワクワクしながら確かめていったことが伝わってきます。自分の考察がしっかりまとめられた作品です。



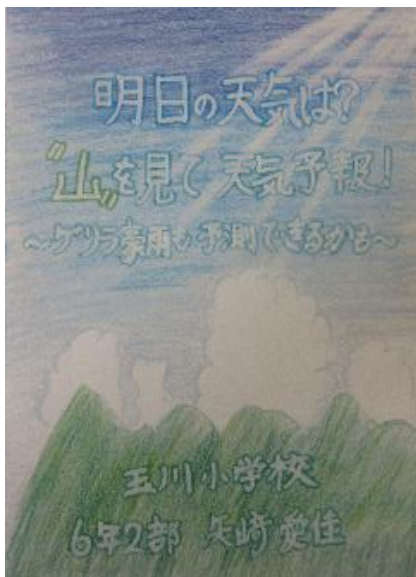
『コシヒカリのおいしさ徹底説明

～なぜ味・生産トップの座を守り続けるのか～』

宮川小学校 6年 ^{ごみ}五味 ^{ゆま}優真 さん

毎日、私たちが当たり前のように食している「米」。その美味しさに疑問を持ち、生産地域の気候や特徴に関係があるのではないかと予想をたて、社会科で学んだ生産量にも目を向けながら、たくさんの資料をていねいに読み取っていきました。

多くの種類のお米の中から、「お米の王様」とよばれる「コシヒカリ」に焦点を当て、47都道府県の生産量上位にあたるお米と比較しながら、日本中の米作りのデータをまとめ、そこから自分なりに考えたことを、米作りにかかわる方々へのインタビューを通して確かめ、さらに深く考察することができています。



『明日の天気は？ “山” を見て天気予報！

～ゲリラ豪雨も予測できるかも～』

玉川小学校 6年 ^{やぎき}矢崎 ^{あいか}愛佳 さん

去年は『気になる？天気の不思議！～私にも天気予報はできるかな～』というテーマで、天気の変化は雲の種類や気圧の変化と天気に関係あることに気づいた愛佳さん。今年、自分で天気を予測して、防災に繋げることはできないかと取り組みました。

雲と天気の関係を文献で調べ、実際に八ヶ岳にかかる雲を毎日観測して天気を予想し、新聞の天気図と比較して確かめることに取り組んでいた時に、自宅より東側にある八ヶ岳では、事前に予測することは難しいのでは？と、観測する山を自宅より西側にある守屋山に変更。地域に伝わる言い伝えとの関係にも触れながらまとめた努力がすばらしく、熱意が伝わってくる作品です。さらに今回わからなかったことも調べていきたいという思いは、まるで小さな気象予報士さんのようです。



『ミミズはすごい』

北部中学校 1年 ^{おおくぼ}大久保 ^{ゆい}結 さん

普段、なかなか気に留めることもないミミズ。ある日、畑の草取りのときに出会ったミミズには、口も目も鼻も手足も見当たらない。「ミミズのいる土はいい土だ」と聞いたことがあるけれど、実はすごいのかも？と、調べ始めました。

ミミズを窓口にして、ミミズの生態、ミミズが死んだ後の土の働きと、身の周りの環境問題にまで目を向けながら、様々な資料を使って追究しています。その中で分かったことを、なんとも可愛らしいミミズのイラストを効果的に使って、絵本のようにまとめています。実際にミミズを飼いながら、ミミズを通して土の大切さを伝え、なぜ『ミミズはすごい！』のかという考えが、見る人にわかりやすくまとめられた作品です。